

ちばしゃ通信

Vol.24



【トピック】

- ♪ 地域でつむぐ
- ♪ 心地よい関係性のバランス
- ♪ 私の子育て奮闘記
- ♪ 起業・就労・支援の間で…

- ♪ つれづれなるままに
- ♪ 各種イベント案内
- ♪ “ときがね”なひととき
- ♪ 法人からのお知らせ

地域でつむぐ



(※23号の原稿も再掲します。)

んは、昔から気性が荒く、地元でも有名で、家族とも何年も連絡を取っていない状況でした。被災直後なので身寄りもなく、孤立していたところを、北山さんが助けてくれました。

「鈴木さんとは、民生委員時代に関わった昔馴染みだし、同年代だから良く知っている」と言ってくれました。北山さん自身も自宅が被害に遭いアパートで避難生活であるにも関わらずに「仮設住宅が完成するまでの数週間であれば」と快く部屋に泊めてくれたのでした。

そのお蔭で鈴木さんは無事に仮設住宅に引っ越すことができ、ちよこらいからよってがいが立ち上がったデイサービスを始める理由となった最初の利用者として沢山の思い出をつくりながら、加齢で体調を崩して亡くなる時まで仮設住宅で一緒に過ごしました。

当時、石巻沿岸部渡波の避難所で、集団行動に馴染めず何度問題を起こして避難所を出て行く事になった頑固で喧嘩っ早いおじいさん「鈴木さん」(仮名)がきっかけでした。鈴木さ



を失っていきました。

仙台にいる北山さんの家族は、北山さんが元気で活動している頃から「仙台で暮らそう!」と何度も誘い、体調を崩した後何度も説得しましたが「慣れ親しんだ石巻を離れたくない」という本人の思いに負け、仙台から北山さんの暮らしを通いながら支えることになりました。

よってがいんでも職員全員と話し合って、始めての経験で何が出来ても分からず探りながらでしたが、本人と家族と打ち合わせを重ねて職員の誰が急変した時に一緒にいても対応出来るようにしようと話して、本人と家族の希望を一番考えて一緒にいる時間を大事に過ごしました。調子の良い時は何でもこなせる北山さんはパソコンを使って文章を書いたり、ボランティア活動も続けていました。

そんな北山さんが、震災から4年が経った頃に急に体調を崩し、原因のハッキリしないまま意識を失って倒れる事を繰り返すようになり、体調面での自信

こうした鈴木さんとの関わりをきっかけにして、北山さんとは親交が深まりました。

急搬送に同行しては入退院を繰り返す事が徐々に増えて来ました。ある日、本人がお腹の調子が悪いと受診した病院で、ガンを疑われ家族のいる仙台の大きな病院で検査を受けると、もう手の付けようがないほど進行している事がわかりそのまま入院する事になりました。

仙台の病院へ入院してからの北山さんは、ガンの進行でお腹が苦しいと食事が摂れずに飲み物を食事の代わりにするようになり痩せていきました。仙台の



入院生活となっても事情を知った方達が病室を訪れ北山さんを元気づけました。仙台の病院に移れば石巻の人達と会えなくなると覚悟していた北山さんはとても喜びました。よってがいんにも連絡をくれて「今日はこんな方が見舞いにきてくれたよ」と報告してくださる程でした。その頃、ホスピスのある病院に転院をすることで痛みを和らげる治療に切り替えができてお孫さんの結婚式にも参加をされました、その後にも色々な所に家族で出掛けて行き沢山の話と写真を私たちがお見舞いに行くとたび本当に嬉しそうに知らせてくれました。

最後の時に連絡をもらった私たちが駆け付けると家族に囲まれて穏やかに息をするところに挨拶をしに行きました。亡くなつてからは、家族一緒に石巻の自宅に戻ってきて大勢の方に偲ばれながら見送られました。

震災から5年が経って、私た

ちが発災直後から一緒に過ごしてきた人達も年を重ねました。甚大な被害を受けた石巻は瓦礫が片付き、海岸に防潮堤が出来て、内陸側の田んぼは埋め立てられて大きな復興区画整理事業を経て大きな町になりましたが、まだ、完成してはならず復興公営住宅への移住もこれからです。今後起こるどの地域にもある高齢化や核家族化に震災の影響もまだまだ出てきますが、私たちは今回のように教えられたり、経験を重ねながら自分たちが出来る事をこの地域の



人たちと一緒にやってやり続けようとしています。

(よってがいん代表 粕屋裕之)

※よってがいんは、東日本大震災の被災地、宮城県石巻市渡波地区で、被災者と共に「地域での暮らし」を支える実践に取り組んでいる。



心地よい関係性のバランス

第12回 失敗から学ぶのか成功から学ぶのか

『失敗から学ぶ』

失敗から学ぶという言葉があるが、私の場合も、とにかく失敗から学ぶことが多い。失敗して学び、また失敗し……。本当にいつまで経っても未熟者だと思ふのだが、なかなか達人の域には達しない。成功だと思つていた事柄でさえ、しばらく経つと失敗だったと気づくこともある。あわてて軌道修正をする。確かに失敗は、多くを教えてくれる。

少し前から、ある研修会のプログラムをつくる仕事をしている。自閉症の人たちの障害特性をヘルパーさんなどに理解してもらうための研修会の内容を企画していく。演習部分が私の担当なのだが、何回か繰り返すうちに、どうもうまくいかないと感じるようになってきた。自閉症の人の障害特性の中に記

憶の特性がある。「すぐ忘れてしまう」という特性と「忘れることができない」という一見矛盾しているような特性が混在するのだ。前者は、たとえばトイレに行こうと思つて立ち上がったのに「あれ？ 何しようとしてたんだっけ？」と自分の行動が完了するまで覚えていられない「忘れてしまう」状態だ。買

い物に行く途中で目的を忘れて、たまたま目に入った公園で遊んでしまったりする。後者は少し違って、一度覚えてしまったことや体験したこと

の記憶が、まるで写真に撮つたみたいに頭に残つてしまい「忘れられなくなる」状態のことだ。しかもその写真はいつまで経つても色あせたり、消えてしまつたりしない。だから、最初に間違つた方法で覚えてしまうと、どんなに次に正しい方法を教え

ようとしても、かたくなに最初に覚えた方法をとおしたくなつてしまつたり、正しい方法を学んだあとも、間違つた方法が消えないので、本人はとても混乱する。

だから自閉症の人たちには、最初から正しい方法で教えることがとても親切なことになる。彼らは失敗から学ぶことがたいへん困難だ。だから支援者は、一般的な「失敗を恐れる」という意味とは少し違った意味で、できるだけ失敗をしないような支援を計画しないと、相手をむやみに困らせてしまうことになる。

『失敗すると意欲を失う?!』

このような内容を理解していただくための演習を組み立てたわけだが、いまひとつ反応がよくない。よくよく観察してみると、だんだんとわかってきた。スタートに問題があるようなのだ。最初、受講生に自分の理解度をチェックするために、間違

いやしい問題を詳しい解説なしに取り組んでもらっていた。

ところが、そこで間違いを書いてしまうと、その後いくら正解を解説しても受け入れてくれないということがたびたび起こる。どうやら、最初に失敗すると次からの意欲を失つてしまうようなのだ。こちらはそんなつもりではなかったが、落とし穴に落としておいて、穴を掘つた張本人に手を差し伸べられているような腹立たしさを感じるらしい。

そこで、今度は最初から失敗体験をしないで済むようにていねいに説明しながら、同じ問題に取り組んでもらうように変えてみた。すると、ずっとスムーズに演習が進んでいく。同じ説明なのに、多くの人が納得してくださるようになったのだ。失敗しないようになっていねいな支援は、自閉症でなくても必要なものだ。

考えてみれば、私たちも失敗から学ぶことばかりではない。

時には失敗しないような親切な手助けが必要だったり、ほめられるような成功体験で、次への意欲がわくというものだったりする。ころばぬ先の杖とはよく言ったものだ。

『失敗にも意味がある』

一方で、私は失敗したことで失敗させない大切さを学んだわけだから、やはり失敗をするのも意味がある。最初は落ち込むし、できれば失敗したくはないけれど、失敗は必ず次につながるヒントを出してくれる。時にはそのヒントが、ほめられるのと同じくらいの意欲になることもある。失敗が次への意欲になるなんて自閉症の人たちからすれば、うらやましい限りなのかもしれない。

きつと、失敗から成功からも適度に学べるということ、は、たいへん幸運なことなのだ。せつかくなので成功体験と失敗体験をバランスよく体験したいものだと思う。

※この原稿は、Juntos（フントス）CLC 発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

大友愛美（おおともよしみ）

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニティワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。

最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場（学校や研修）での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ばなければなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれない…と感じている今日この頃です。

『びっこ流』

ともに暮らすためのレッスン』

へ1, 600円＋税 絶賛販売中

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



私の子育て奮闘記

大学のスクーリングから得たもの

通信制大学のスクーリングから帰ってきた私は、やる気になり、次男にとって必要なモノをすべてインプットして行こうと、日々取り組んでいた。大事なものは、本人が自ら動くこと、その環境をつくるために、教材づくりをし、週20時間のセラピーの時間を取りたいと、時間があればセラピーをする日々。次男にしてみれば急にやる気になった私に振り回されて「たまったもんじゃない」という感じだったかもしれない。

けれど、3か月たつというんな面で変化が出てきた。要求を伝えたい場面で要求語が出たり、保育園のお集りの時に長く座っていられるようになったり、一つのおもちゃですつと遊んでいたりという時間が毎日ではないにしろ、確実に増えてきて、関係者の方々もその変化を喜んでくださった。

スクーリングでは、もう一つ素敵な出会いがあった。それは先輩お母さんとの出会いである。地元の周りにも子供の年齢が近い小学校などの先輩お母さんはいるが、そのお母さ

んは高校生のお子さんのお母さんだった。スクーリングの自己紹介で子供の状況も触れた私に、そのお母さんはお昼ご飯の時にこういった。「うちも、小学校のころ息子は支援級だったの。パニックも結構あったりして本当に大変だった。でも、いろんな人に恵まれて、勉強もできるようになって、高学年になってからは、普通学級でみんなと一緒に学べたんだよ。それから、今は高校生だけれど、生徒会の役員だよ。」と今の姿を教えてくれた。そして、「あの頃の私は、今の子どもの姿は想像できなかったよ。子どもはみんな違うけど、それぞれ絶対伸びるから！」と話を聞いた私は、とても、衝撃を受けた。

自分の子供たちが高校生になった姿などまだ想像もしていなかったが、そういう未来の可能性もあるのだと思った。わが子の伴走してきたお母さんの話は、どんな本を読むよりも説得力があった。まったく同じようにいくとは限らないが、我が家には希望を感じる話でそれを胸に奮闘する日々だった。（おかめ）

起業・就労・支援の間で…

「研究会から立ち上がった「ブレームン」の星数支援センター」

(「コミュニティワークス」理事長 筒井啓介)

前々回に書いた、千葉県に設置され、私が座長を務めた「あなたに合わせた支援を星の数ほど研究会」の話を続きを。

月に1回ほどの千葉県庁内での研究会は1年ちよつと続きました。県内の実態調査から始まり、既に制度外の福祉サービスを提供していた事業所の事例報告、さらには制度外福祉サービスがなかなか広まらない理由や抱えている課題などを1つ1つ把握し、その都度、議論を深めていきました。

当時、制度外サービスを提供している事業所の多くは「たすけあい活動」もしくは制度内サービスを提供している事業所が制度だけでは賄えない部分を独自に制度外サービスとして提供しているケースがほとんどでした。そしてそれぞれの事業所に共通している課題は「利用者

側の経済的負担と事業所側の採算面」でした。制度内サービスは国や行政の法律に沿ったものになるため、対象者やサービス内容の制限はあるものの、サービスを受ける側の費用負担は1割で済みます(残りの9割が国や行政が負担します)。一方の制度外サービスは対象者やサービス内容の制限はありませんが、かかった費用は全額サービスを受ける側が負担しなければなりません。

例えば、「たすけあい活動」での利用料金は1時間1000円前後です。「たすけあい活動」は地域住民がお互いが支え合う仕組みのため、かなり良心的な(ボランティア的な)価格設定です。それでも1時間の利用を1か月毎日続ければ30000円になり、これが全額自己負担となると、経済的にはかなり重

荷になります。事業所側にとってもできるだけ利用者側の負担が重くならないような価格設定にせざるを得ないため、運営費としてはわずかしか入らず、コーディネートする職員の人件費や事務所の維持費を捻出するのは至難の業です。制度外サービスが必要なことはみんなが認識しているにも関わらず、なかなか広がりを見せない原因がここにあります。

研究会としては1つの区切りをつけなければならなかったため、①制度外福祉サービスの普及、②立ち上げの支援、この2つの必要性を提言としてまとめました。上述のようなお互いの金銭面の難しさがある以上、制度内サービスを提供している事業所がある程度の収入がある事業所が制度外サービスを提供することで、必要としている方への地域生活を支えていくことの必要性を普及啓発していくことが1つ。もう1つは想いのある人(特に若い人)が県内で制度外サー

ビスを立ち上げることができるような土壌・環境づくり。

研究会は1年ちよつとで終わりましたが、ここでの提言を実際に形にすることが大切だと考え、研究会に参加されていた方々を中心に、「ブレームンの星数支援センター(のちに「千葉県地域共生ケア振興センター」に改名)」というNPO法人を立ち上げ、千葉県と協力をしながら活動を展開することになりました。(次号に続く)

Natural Café+Shop hanahaco

営業日：11時～16時(定休日：火曜)

住 所：木更津市矢那 1879-1

電 話：0438-38-4368

メール：info@np0-cw.net

Facebook：

<https://www.facebook.com/hanahaco.k/>

つれづれなるままに

錦秋と呼ばれる秋が本当に巡って来るのかと思うほど、実りの秋に台風が幾つも襲来し、昨年の関東・東北豪雨に続き、北海道・東北地方に多大な被害をもたらしました。私が住んでいる地域でも、長引く秋雨前線の影響で、稲の刈取りに大変苦労している状況でした。私の記憶では、今年のような雨の多い時期はなかったのではないかと思います。無理して刈取りするのでコンバインが故障し、多額な修理代を負担しなければならぬという本当に大変な年で、農家の方々のご苦労は察するに余りあります。

さて、昨日のニュースで、トヨタ・スズキ提携という、映像でも両社の代表がにこやかに握手を交わすシーンが見られました。今までも各産業・業界の合併・吸収や再編という時代の流れの中で、自動車産業も国際競争力を高めるには、それぞれの

良いところや弱い部分を補う、いわば、双方の思惑が一致しての結果であろうと思います。

トヨタの社長は久しぶりに創業家のお孫さんとなり、社長就任後、始めて本社に出社する時の写真がある雑誌の表紙に掲載された時、カメラマンの技術も凄いと思いました。アップで撮られておりまして、その表情や瞳の奥から「覚悟」の程を伺い知ることが出来ました。

前述の記者会見時、スズキの会長は「独立した企業として経営していく覚悟は変わらない、しかし、スズキの自動車技術を磨くのみでは将来は危うい」という言葉を述べられておりました。これで、日本の自動車産業はトヨタ・日産・ホンダの3社に統合されていくことになりました。

大手企業であろうと、下町の工場であろうと生き抜いて行くためには、時代の波をしつかり

と見据え、経営判断をしていかなければなりません。

このことは、人が人生を生きて行く上で、岐路に立たされることもしばしばあります。アメリカの実業家、アーマンド・ハーマーの言葉に、「たった一人の人間でも、覚悟を決めれば状況を変えることができる。」また、

経営コンサルタントの神田正典の言葉にも、「ひるまない覚悟があるから、答えがない状況であっても、一步を踏み出すことができる。」という言葉があります。法人でも個人でも、岐路に立ったときには、置かれている状況から、進むべき道を選択するための情報を整理し、決断する時には勇氣と覚悟をもって判断をすることが必要ではないかと思っています。

国も、少子・高齢化、人口減少社会を迎え、社会保障政策も転換の時期を迎えていることから、本会も国の政策誘導・動向

を注視し、情報を整理しながら、「身の丈」にあった経営ビジョンを、役員の皆様方としっかり協議しつつ、地域の皆様方のご支援とお力添えにより、地域の特性に合った、事業の展開を進めて行きたいと考えておりますので、行政の方も応援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

(総合施設長 齊藤 操)



きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
着なくなった着物をほどこ、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。 開催日：調整中です。 ※興味のある方はご連絡ください。 錫嶺の家（50－0285）	健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？ 旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。 開催日：11月2日（水） 11月16日（水） ※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50－0362）	介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。 開催日時：11月10日（木） 13:30～15:30 会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代） 主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)

ときがね・街かど福祉塾

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

対象：興味のある方ならどなたでも
定員：30名

（問合せ先：ちば地域生活支援舎
Tel:0475-53-3630）

《第14回》

「千葉県における障害者就労の現状と課題・可能性（仮題）」

日時：平成28年10月26日（水）
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・第1会議室

講師：藤尾健二

（千葉県障害者就業キャリア
センター センター長）

《第15回》

「累犯障害者・高齢者の支援とは（仮題）」

日時：平成28年11月17日（木）
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：岸恵子

（千葉県地域生活定着支援センター
センター長）

東金ひと・しごと・くらしサポートセンターこころん

当法人では、平成28年5月より、東金市の委託を受け「東金市生活困窮者自立相談支援事業」の業務を開始しました。

概要は、ホームページ又はチラシをご確認ください。

◆営業日・時間

月曜日～土曜日 9:00～18:00

◆相談電話

0475（50）4251

◆メールアドレス

cocoron@ninus.ocn.ne.jp

◆所在地

東金市東上宿3－15



ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

夏も終わり、ようやく朝夕と過ごしやすくなりました。庭の草陰より虫の音が聞え、陽向でプールを楽しむ子ども達の楽しい声に気が取られていたのが昨日のように感じられます。

夏に茂った庭の草刈りは、スタッフと利用者のMさん・Hさんに協力して頂き、綺麗に刈ることが出来ました。

Mさんは、麦わら帽子に手袋をして、一人決まった場所の草を取ってくれていました。「お昼だよ、終わりにして中に入る

う！沢山取ってくれてありがとうね！」と声を掛けると、「はい！もう少し！」とハイタッチしてくれます。

Hさんは、頭と首にタオルを巻き、額の汗を拭いながら深い根と闘っているようでした。「無理しないで少し休んで」と、冷たい飲み物を渡すと、ゴクゴク飲み干し、「いや、まだ！」と再び根つこと力比べです。

さっぱりとした庭に朝顔の新芽が顔を出しました。Yさんと窓越しに小さな双葉を眺め、「花咲くのかな？」というと、「咲くよ」と答えてくれました。時期外れの朝顔に少し肥料をあげました。綺麗な花を咲かせてくれることを密かに願っています。

鴉嶺の家（児童）

夏休みが終わったと思ったらあつという間に10月になってしまいました。今年も残すところ2ヶ月なんて信じられません

ね。これからの季節、ハロウィンにクリスマスなどといったイベントがたくさんあります。子ども達に季節を感じてもらえるような飾りや雰囲気作りに取り組みたいと思います。

今年は子ども達と一緒に折り紙で、カボチャやオバケを作れたらいいなと思っています。器用な子ども達に負けないようスタッフも頑張りたいです^(^-^)

最近、新しいお友達も増え、本事業所は更に賑やかになりました。公園へ出かけると元気いっぱい遊ぶので、スタッフの体力が中々追いつきません。(笑) 最近自分の体力の無さに危機を感じ、毎日ストレッチ・腹筋・腕立てをしています。子どもに足を押さえてもらい喝を入れられる毎日です。いつになったら成果が見せられることやら……。話は逸れてしまいました。話が、これから寒くなりインフルエンザ等が流行り始めるので皆さん体調管理には十分お気を付け下さい。

子ども支援センターぽけっと

庭のみかんが、少しずつ色付き始め、ぽけっとも秋らしくなってきました。

子ども達の遊びも、どんぐり拾いや葉っぱ集め、木登り（夏の間は蟬に占領されていた為）などに変わってきました。

野球大好きK君は、夏からの情熱そのままに「公園行こう」とバットとボールを持ち、晴れの日には毎日スタッフを誘ってくれます。そんなやり取りを見ていた高校生のS君が最近涼しくなってきたせいか、一緒に参加してくれてピッチャーをやってくれています。「頑張つてー！」と応援してくれる同い年の女の子もいて、とても良い雰囲気です。

また、最近ぽけっとでは昭和ブーム?!とでもいいでしょう。歌が大好きな高校生のK君は「ブルーライト横浜」「ラブイズオーバー」など自分で歌っている動画を撮っては見せてく

れ、その世代のスタッフが熱唱したり、修学旅行でなんば花月に行ってきたT君・Y君がおさむちゃんや西川きよしさんを見てきた話を聞けば当時のギャグを再現して見せたりと面白く新鮮なやり取りが見られ差詰め芸術の秋？という所でしょうか：みなさんも色々な秋を見つけて楽しんでくださいね。

サポートセンタースピリッツ

みなさんもニュースでご存知かもしれませんが、8月、東京メトロのホームで盲導犬を連れた視覚障がい者50代男性がホームから線路に転落し、亡くなるという事故がありました。東京では、主要の駅で転落防止柵が設けられるようになりましたが、それはごく一部の駅にしかなく、全国的に見てもほとんど駅の駅では対応していません。もちろんコストの問題、駅利用者数の問題等、いろいろありますが、誰でも利用しやすい駅にと

考えると必要な事だと思えます。ですが現実的に考えてすぐに全ての駅に転落防止柵を設けるということは無理です。障がい者の方の多くは、声を掛けられると助けられることが多いと聞きます。毎回声を掛けるという訳にはいきませんが、「困っているそうだな」「危ないな」と感じた時は、勇気を持って声を掛けるとこのような事故が少し減るかもしれませんね。

街かど福祉相談室ると

金木犀の香りがする季節になりました。9月は台風と台風の影響を受けた秋雨前線で、雨の日が多く続きましたし、冠水もあちこちで起こりました。10月以降は落ち着いた気候になる事を祈っています。るるとではモニタリングを通して皆さんのサービスの利用状況、生活の変化などをお聞きしています。その際、「何かあればその都度対応させて頂くのでご連絡くださ

い。」と伝えていますが、やはりこちらから気に留めて連絡するようにはしています。それでも日々変化している生活の中で、例えば、引っ越しをした、利用する事業所が変わっていったなどということがあります。忙しく毎日を送っていると連絡し忘れてしまうこともあると思います。面倒だとは思いますが、『何か』あった場合は一報いただけると助かります。私たちは相談支援という性質上、家庭や学校、サービス事業所等と異なり、皆さんの日常に接することが多くありません。その中で各事業所や関係機関からの連絡や報告はとても助かります。これから皆様と良い関係を作っていきたいと思えます。

ハンドワーク

◆生活介護

ハンドの周りでは、稲刈りが始まり緑が少なくなりました。生活介護では、ソーイングボックスを作ったり、天気良

い時には散歩に行き、皆で汗をかきながら楽しく歩いています。

しかし、Yさんにより他の利用者さんや保護者に影響が：（^_^）ちよつと大変なことが続いています。近いうちに昭和の森など、交通機関を利用して外出をしたと考えているのですが、なかなか予定を上手く組むことが出来ずにいるのが現状です：。利用者さんは皆ドライブや外出が大好きでわくわくしています。まるで子どもが待ちに待った遠足に行けるような笑顔で外出ができて、職員は癒されています（^_^）

◆就労継続支援B型

金木犀の香りが風に乗ってくる季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。じりじりとした暑さもようやく過ぎ去り、爽やかな風が吹くようになると、ハンドワークではイベントの準備に追われるようになります。

10月は、松尾で開かれる健康福祉まつりやシナリーの里の秋

祭り、11月には東金市での産業祭が待っています。

いつも作っているエコクラフトも「秋の色って何色?」「オレンジとか茶色だとありきたりかな?」等々、相談の会話が飛び交うようになります。そんな中で、今年はちよつと新しい、毛糸を使ったキーホルダー作りにチャレンジ中!皆で毛糸を巻きつけて長さを整えると、写真の様なまん丸のポンポンが完成^(^_^)顔のパーツをつけると、あつという間にハロウィンパンプキンの完成です♪

イベント
でお会いできる日を
楽しみに
しております!



ありさ

ありさでは、9月30日に避難訓練をしました。ここの所ずっと雨予報だったので、この日に

賭けていましたが、晴れ女晴れ男が多いおかげか晴天に恵まれ決行することが出来ました。前回の避難訓練の際は、地元の消防の方にも立ち会ってもらい普段の訓練内容を見てもらいました。そこでアドバイスももらった内容に直して、今回実施しました。

皆さん事前の注意をよく聞き真剣に取り組んでいました。中には訓練ということが伝わらず、机の下に隠れるのを拒む方もいましたが、何とか真剣さを伝えて隠れることも出来ました。避難誘導の時は、車椅子の人を押したり、発作がある人と手をつないだりと、お互いに協力して避難することが出来ました。避難することがなかなか通じず、座り込んでしまう人もいましたが、必死さを伝えて一緒に避難することが出来ました。実際でもこんなことがあるだろうなと思いつつも、「命を大事に」を最優先に考え、本気で取り組みました。

五根の家

◆小規模多機能ホーム

残暑も落ち着き、秋雨の時期となりました。

先日、ボランティアの方が来られ、演奏に合わせて皆さんで歌を歌う機会がありました。その日はKさんの誕生日だったのでみんなで描いた寄せ書きの色紙とバスデーケーキでお祝いする予定でした。その事をボランティアの方に話すと、即興でバスデーソングを演奏して下さい、Kさんから『みんな、どうもありがとう!!』と満面の笑みで挨拶されていました。また、ボランティアの方に自身が中学校時代に使われていたガリ版印刷の歌集を嬉しそうに見せているお年寄りがいました。歌集は昔の物とは思えない程、程度が良く、いかに大事にされていたかが伝わってくる物でした。

話は変わり、中秋の名月の日にOさんを迎えた際、スタッ

フより『月が綺麗ですね』と声掛けすると車椅子に乗っていたOさんの目線からは見えなかったようで、場所を少し移動して一緒に月を眺めました。

普段の何気ない日常の中で、お年寄り一人ひとりと同じ目線に近づき、色々な想いを少しでも一緒に共有できたと思います。

◆グループホーム

連日の台風で不安定な天気が続いていましたが、お彼岸を過ぎた頃から晴れ間も見られるようになり、それに合わせるように涼しくなってきました。

先日、敬老会の日でスタッフ手創りの敬老カードを皆さんにお渡しして、祝い膳を食べながら長寿をお祝いさせて頂きました。後でカードを居室の壁に貼っていますが、バスデー色紙と同様人によっては4枚5枚とあり、カードや色紙を見ながらグループホームでの生活の歴史を感じ、様々な出来事感慨

深く思い出します。

日々、身体の痛みなどを抱えながら年々体力や気力は落ちていきますが、その中で思うように動けない身体を精一杯動かそうとされている姿を見ると凄いと感じます。少しでも痛みや辛い想いを軽減できたらとスタッフも試行錯誤で関わりますが、痛みや辛さは簡単になくなるものでなく、日々悩みながら、痛みや辛さに共感しながら付き合うことしか出来ず、でもそれが大事だと思いながら一緒に過しています。

地域福祉情報・相談センターリンク

営業…午前10時～午後8時
場所…東金ショッピングセン

ター「サンピア」内1階
(ステージコート脇)

内容…福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動
に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に
関する情報の掲示・配布

ハンドワークからのお知らせ

ハンドワークでは facebook (フェイスブック) を始めました。普段の活動内容や、商品・イベント情報などを発信しています。まだ始めたばかりですが、これから内容の充実を図っていきたいと思います。興味のある方は、是非フェイスブックをご覧ください。

検索は ⇒ facebook ハンドワーク ARISA



をご希望の方は、当法人
まで ご連絡ください。

(0475-533630)

スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きませんか？

日数・時間・曜日・内容(介護・保育・支援・食事づくり・清掃など)・年齢等ご相談に乗ります。

興味のある方は、ぜひ当法人
にご連絡ください。

(0475-533630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475-533630)

編集者のつぶやき

ちばしゃ通信も、今度の11月19日で、発行からまる2年となります。毎号、少しずつバージョンアップしてきませんが、さらに大きく変化します。ちば舎の広報誌としての機能と福祉・介護の情報誌としての機能とに分け、発行いたします。次号、ぜひ楽しみにしてください。(jerry)

スピリッツの記事で視覚障がいの方が駅のホームで転落してしまったとありましたが、駅にいる方は視覚障がいの方とは限りません。先日、ホームの端ギリギリを何度も往復している方を見かけました。沢山の人が行き交っている中で、ぶつかってしまうととても危ないです。駅に限った事ではないので周囲の心遣いで事故が一つでも少なくなるといいですね。(W)



ちばしゃ通信
(Vol.24)

発行日：2016年10月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630